

**【目的】**

小学校, 中学校, 高校, 大学の4カテゴリーにおける全国大会入賞競技者におけるパーソナルベスト(以下PB), PB到達年齢, シーズンベスト(以下SB)から各カテゴリー間の差異を明らかにする。またこの中から, オリンピック選手を抽出し, その変遷を明らかにすることを目的とした。

**【方法】**

調査Ⅰ：4カテゴリーの全国大会における100m, 200m, 400mの入賞者, 775名を対象とし, PB, PB到達年齢, SBを調査した。また, 調査Ⅰの対象競技者から, オリンピック選手を18名抽出し, その競技者のPB, PB到達年齢, SB, 種目実施年数, PB到達までの年数を調査した。

調査Ⅱ：オリンピックに出場経験を有する者に半構造化面接を行い, 経験及び軌跡を, TEMを用いて可視化した。

**【結果】**

調査Ⅰでは, 100m, 200m, 400m, のPBとPB到達年齢間に負の相関が認められた。カテゴリー間のPBの比較においては, 100mでは小学校全国大会入賞者と中学校全国大会入賞者間, 中学校全国大会入賞者と高校全国大会入賞者間に有意差が認められた。200mでは中学校全国大会入賞者と高校全国大会入賞者の間に有意差が認められた。400mでは, 全てのカテゴリー間に有意差が認められた。また, PB到達年齢の比較においては, 100m, 200m, 400m全てのカテゴリー間に有意差が認められた。

調査Ⅱでは, オリンピック選手は幼少期に社会的ガイド(SG)を受け, 運動に対する有能感を得ていた。その有能感は, 全国大会の入賞などから得たのではなく, 地域や学校などで行う一般的な活動を通して得ていた。

**【結論】**

調査Ⅰと調査Ⅱより, 幼少期, 小学校期, 中学校期の高いパフォーマンスが, 将来的な高いパフォーマンスへと繋がる可能性は低く, 学校や地域の一般的な活動を通して得た有能感からもオリンピックへ繋がる可能性が考えられた。